

(同社)と見ている。

安価だけでなく品質にこだわる

#### 瀬崎林業

瀬崎林業(大阪市、瀬崎民治社長)の国産材丸太輸出は2017年取扱量が過去最高となり、10万m<sup>3</sup>を上回った。18年の販売は順調で、1～3月は、台湾、中国向けともに17年を上回るペースで契約が進んでいる。もともと国内の国産材丸太の売れ行きが伸び悩んでいたのをきっかけに、10年から丸太輸出を始めた。しかし「今は需要が供給を上回りだした。輸出事業の足元を見直さないといけない」(瀬崎社長)。需要増に伴って供給範囲を拡大し、無理に集荷をすることは採算悪化に結び付くという。

同社の問屋としての規模に見合った集荷ができる宮崎県と大分県に主力地域を絞る。両県産材は品質が良く、目合いもきめ細かい。丸太出材、配送の効率化を図り、安価な材だけでなく産地の特徴を生かす。輸出港は細島港(宮崎県)と佐伯港(大分県)を中心とし、蒔田港(福岡県)も予定している。台湾向けは良材に手堅い需要があり、中国向けも品質を重視する業者もいる。先行き、販売先を徐々に開拓する方針だ。

同社は社員が直接仕入れに当たり、A材からC材まで受注に合わせて対応する。「量を追うのではなく、これまで以上に品質重視で取り組む」(瀬崎社長)と話す。